

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校

学校番号	8
------	---

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1)一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 (2)学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 (3)社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱心に学習指導に取り組んでいるという項目では、81.9%の肯定的評価となり、昨年度より3.1ポイント下がった。</li> <li>専門的知識や授業内容の信頼性に対する項目では、83.8%の肯定的評価となり、昨年度より1.4ポイント下がった。</li> <li>授業の教え方や説明が分かりやすいかの項目では、74.1%の肯定的評価となり、昨年度より6ポイント下がった。</li> <li>保護者に対するアンケートにおける肯定的評価がホームページでの情報発信が82.7%から65.2%へ、学校緊急連絡メールの活用が92.8%から73.1%へと下がった。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇基礎的・基本的な学力の定着を図り、目的をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度の育成を目指す。</li> <li>◇授業を大切にし、1時間の授業目標とまとめを明確にすると同時に生徒一人一人が授業で充実感をもてるような指導方法の工夫、分かる授業、活気溢れる授業、ICTを積極的に活用した授業に努める。</li> <li>◇あらゆる機会を通して、学習活動の重要性を認識させる。</li> <li>◇教育課程の研修を推進し、各学科の在り方、コース・系列における学習内容の充実と精選を図る。</li> <li>◇各教科・科目における評価規準の研究推進を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学習する意義を正しく理解し、意欲的に授業に参加するために、教材研究を十分に行い、創意工夫を重ね、生徒が分かる授業に向けて日々研鑽するための教科別会議の開催。</li> <li>生徒にコース・系列・科目選択の重要性を正しく理解させ、進路目標にあったコース・系列・科目選択ができるように努める。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)家庭学習時間調査を実施し、生徒の学習に対する意識を高め家庭学習習慣の確立へと繋げる。 (2)分かる授業を目指して教員間で授業を公開し、意見交換を通して授業改善に努める。 (3)日々の授業を振り返り、分かる授業に向けて研鑽を重ねる。	(1)家庭学習時間調査 (前期期末考査前) (2)公開授業週間(5月・10月)各2週間 (3)生徒による授業評価(6月・11月)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①家庭学習時間調査 ②教員相互の公開授業週間(5月17日～28日) (10月26日～11月5日) ③授業評価(6月14日～18日) (11月8日～12日)	①ひとり平均 1日 84.0分 (令和2年度 85.7分) ②ひとり平均 2.2人の参観 (令和2年度 2.4人) ③各教科80%以上の肯定的評価	A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
11 成果・課題	○熱心に学習指導に取り組み、専門的な知識が豊富で授業内容が信頼できると多くの生徒に評価されている。 ▲ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、学習の理解につながっているに対して肯定的評価が、62.7%と低く評価を受けた。学習指導全体の肯定的評価は昨年とほぼ同じであり、更に分かりやすい授業に向けて、まず個々の生徒を十分に理解したうえで、生徒の個性を踏まえた学習指導と十分な教材研究が必要となっている。	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度マニフェストでは、生徒による学校評価(学習指導の項目)の肯定的意見が80%以上となることを目指してきた。しかし昨年度71.9%と肯定的評価であったが、本年度は71.3%と下がったため、来年度こそ、80%以上を達成するために以下の2点に力を入れていきたい。</li> <li>ICTを使った教材研究を十分にできる時間を確保し、生徒一人一人がタブレットを使った学習をすることで、授業が分かる喜びを感じることで学習指導へとつなげていきたい。</li> <li>ICT研修を積極的に推進していく体制を、継続的に計画し、実施していきたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

### 【意見・要望・評価等】

- オンライン等での学習支援、従来の授業とは違う対応をしなければならない中、本校は生徒の学習理解を深める努力をしている。
- 個を伸ばす教育を実践している。コロナ禍でのICTの有効活用を期待する。
- スクール・ポリシーやカリキュラム等、次代に向けた教育改革や本校ならではの特色ある教育を期待する。今、やらなければならないこと、今だからできること、止めることなど、教員の負担軽減(働き方改革)を意識し、生徒も教員もやる気が倍増する環境を整えてほしい。